

6-1. HPにおける生産性向上の優良事例ご紹介

- パン・菓子から、惣菜、冷凍食品に至るまで、**多岐に渡る業種**から約50社の優良事例を抽出し、HP上で公表。
- 検索機能を活用することで、業種、効率化した工程・事例等に応じて、**自社に合った事例**を抽出可能。

概要

- ✓ 生産性向上の取組を積極的に行っている食品製造事業者に対して個別ヒアリングを実施し、**生産性向上の取組の実施状況**やその**問題点**、**生産性向上を推進するために必要な要件**等を調査。

公開内容

- ✓ 各工程（受注、生産、品質管理、梱包・運搬、事務管理等）における**自動化、ロボット導入、DX・IoT化等**の事例



6-2. 食品製造業における省力化導入の優良事例①

野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業

包装充填機とパレタイザーの導入

業種としては労働生産性は低いものの、充填包装機、パレタイザー等の導入事例も存在

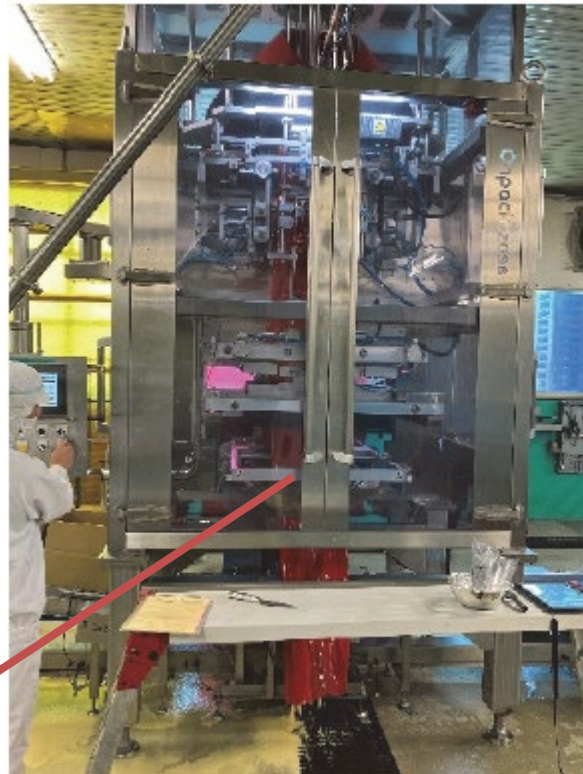
(導入前)

冷凍製品のシール作業や梱包作業、荷積みは全て手作業で実施



(導入後)

- 包装充填機の導入により充填から梱包までほぼ自動化。
- パレタイザーの導入により荷積みは完全自動化。



縦ピロー包装充填機：

充填する生姜やニンニクは液体とは異なり、それぞれに品質の特徴や特性があるため、充填の流量の調整を綿密に行い、安定稼働にこぎつけた。



パレタイザー：

重量物・冷凍物の長時間の荷積みも可能に。



6 - 3. 食品製造業における省力化導入の優良事例②

めん類製造業

製造工程におけるIoT監視システムの導入

製造工程におけるIoT監視システムを導入するなど、DX化に取り組む事業者も存在

(導入前)

製造工程において、機械トラブルが発生しても、経年劣化なのか、麺が詰まった一時停止なのか正しく判別できない状況。



(導入後)

工場から離れた事務所でも一つ一つの設備が正常に稼働しているか一目瞭然に。

事務所PCの管理画面
極力簡素化し、色で現在の機械設備の状況が確認できる。

製造ラインを流れるそば。切れ端が詰まっていないかセンサーが感知する。



投入口が詰まる前にセンサーが感知し、回転灯が起動し、サイレンが鳴る。

6-4. 食品製造業における省力化導入の優良事例③

パン・菓子製造業

攪拌ミキサーのカスタマイズと運搬ライン化

省力化技術の新規導入に限らず、既存設備のカスタマイズ等、取り組みやすい点から対応

(導入前)

20kgの袋入り小麦粉を作業員が持ち上げてミキサーに投入。
練った生地も作業員が持ち運ぶ状況。



(導入後)

- 原料ミキサーの粉体投入を機械化し、投入動作を軽減。
- 生地が入ったタンクを載せたカート及びレールを設置し、運搬の負担を軽減。



生地タンクから焼成機の投入口までレールを敷き、練った生地はカートに入れてスムーズに運べるように改変。



原料投入口を改変し、重い袋を持ち上げることなく投入できるように。

7. 農研機構食品研究部門との連携強化



○ 室発足以降、**農研機構食品研究部門との連携を強化**。食品分野における研究成果、農研機構と食品企業の連携可能性、今後の方向性等について積極的に意見交換を実施。

● 当室と農研機構との連携強化に向けた取組（令和6年度～）

年月	内容	概要
2024年 5 月	農研機構 研究室訪問・意見交換	- 農研機構より研究室紹介等を通じて最新の研究内容を紹介。 - 当室より室の取組を紹介しつつ、今後の連携強化に向けて意見交換。
9 月	農研機構食品研究部門と食品企業等派遣の調査員との意見交換会	新事業・食品産業部に派遣されている食品企業の調査員等と食品研究部門の若手研究者との間で意見交換。
10月	農研機構（食品研究部門・本部ビジネスコーディネーター）との意見交換	当室の人的リソース、予算事業等を活用した、農研機構と食品企業の連携強化について意見交換。
11月	「食品研究成果展示会2024」への出席	- 農研機構より研究成果を講演会・ポスター発表を通じて紹介。 - 農研機構が民間企業との連携に期待する技術等について協議。
2025年 2 月	「食品試験研究推進会議」への出席	これまでの研究成果及び今後の方向性について、農林水産省、農研機構、公立試験研究機関等で意見交換。
2 月	食品研究に関する意見交換会	食品の製造・加工、流通、外食等の分野において、解決すべき課題とその技術的対応について議論。
4 月	農研機構 研究室訪問・意見交換	- 農研機構より研究室紹介等を通じて最新の研究内容を紹介。 - 当室より室の取組を紹介しつつ、今後の連携強化に向けて意見交換。

8-1. 食品産業研究開発懇話会（通称：二木会）概要

趣旨・設立の経緯

- 食品産業の強化・育成を目的に食品製造業大手の研究開発部門が連携する場として、食品流通局技術室（現・食品製造課原材料調達・品質管理改善室）の呼びかけで昭和61年7月に発足。
- 食品製造業の各業種のリーディングカンパニー11社が参加。

会員

●会員企業（11社）

会員1名、連絡員1名

※会員は各社の研究部門の役員、研究所所長クラス。他に各社研究所の管理職クラスの連絡員がいる。

●農林水産省

●農研機構

社名・組織名	会員の所属・役職
味の素（株）	食品事業本部 食品研究所 コンシューマーフーズ開発センター長
伊藤ハム米久ホールディングス（株）	中央研究所 所長
キッコーマン食品（株）	執行役員 商品開発本部長
サントリー食品インターナショナル（株）	MONODZUKURI本部 R&D部 部長
（株）日清製粉グループ本社	常務執行役員 R&D・品質保証本部 本部長
日清オイリオグループ（株）	技術本部 応用研究所 所長
（株）ニッスイ	中央研究所 所長
不二製油グループ本社（株）	つくば研究開発センター センター長
（株）明治	研究本部 分析化学研究ユニット長
森永乳業（株）	研究本部 食品開発研究所長
山崎製パン（株）	中央研究所 所長

活動内容

●開催状況

- 奇数月の第二木曜日午後（15～17時）に2時間程度の定例研究会＋立食の意見交換会を実施。
- 毎回の勉強会の幹事は各企業が持ち回りで実施。毎年の会長企業も持ち回りで担当。

●これまでの農水省参加状況

- 通常開催の4回（1，3，7，9月）の研究会においては、補助事業や制度改革に関する話題など、会員企業が必要とするタイムリーな国の施策情報を農水省より説明。
- 勉強会の開催場所は、KKRホテル東京。幹事会社と調整の上、農林水産省（改善室）と農研機構（食品研究部門）で数名の参加者申し込みを行っている。